

雑感 「データの分析」とΣ計算

■ 数学 I の「データの分析」では、平均値、分散、共分散、相関係数などの値が定義され、その値が分析に活用される。

しかし、総和Σの記号が数学 B で扱われるため、Σを用いない長ったらしい式でこれらの値が表記される。その長い表記は初学者には分かり易いという側面を持つ一方、式の書き出しは煩雑で、Σの持つ性質を簡単に使い記述して行く上では、極めて不便である。

■ 数学 B までを試験科目に含めている大学では、Σを用いた表記での出題が普通にある。

例えば 2016 年の一橋大、広島大の問題ではそれぞれ

「(略) $2n$ 個の実数 $a_1, a_2, \dots, a_n, b_1, b_2, \dots, b_n$ について、

$$a = \frac{1}{n} \sum_{k=1}^n a_k, b = \frac{1}{n} \sum_{k=1}^n b_k \text{ とすると, } \sum_{k=1}^n (a_k - a)(b_k - b) = \sum_{k=1}^n a_k b_k - nab$$

が成り立つことを示せ。(略)」

「(略) $f(a) = \frac{1}{n} \sum_{k=1}^n (x_k - a)^2$ とする。(略)」とある。

この表記だと、 $\sum_{k=1}^n (a_k - a)(b_k - b) = \sum_{k=1}^n a_k b_k - a \sum_{k=1}^n b_k - b \sum_{k=1}^n a_k + nab$,

$$f(a) = \frac{1}{n} \sum_{k=1}^n x_k^2 - \frac{2a}{n} \sum_{k=1}^n x_k + \frac{n}{n} a^2 \text{ といった式変形がすぐに従う。}$$

■ センター試験だとうはいかない。2017 年の追試験。

(3) A 組 m 人と B 組 n 人の生徒に対して行ったテストの得点を

A 組 x_1, x_2, \dots, x_m

B 組 y_1, y_2, \dots, y_n

と書く。各組の平均点を \bar{x}, \bar{y} 、分散を S_A^2, S_B^2 とする。また、A 組と B 組を合わせた $(m+n)$ 人の得点の平均点を \bar{w} 、分散を S^2 とする。これらの中に一般に成り立つ関係について調べる。

A 組の得点と \bar{w} の差の 2 乗の和

$$(x_1 - \bar{w})^2 + (x_2 - \bar{w})^2 + \dots + (x_m - \bar{w})^2$$

を、 \bar{x}, S_A^2, \bar{w} を用いて表すと である。ただし、 S_A^2 は

$$S_A^2 = \frac{1}{m} (x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_m^2) - (\bar{x})^2$$

を、 \bar{x}, S_A^2, \bar{w} を用いて表すと である。ただし、 S_A^2 は

で計算できる。 に当てはまるものを、次の①~③のうちから一つ選べ。

- ① $S_A^2 + (\bar{x})^2 + (\bar{w})^2$ ② $S_A^2 + (\bar{x} - \bar{w})^2$
 ③ $mS_A^2 + m\{(\bar{x})^2 + (\bar{w})^2\}$ ④ $mS_A^2 + m(\bar{x} - \bar{w})^2$

A 組と B 組の生徒を合わせた $(m+n)$ 人の得点の分散 S^2 は に等しい。 に当てはまるものを、次の①~④のうちから一つ選べ。

- ① $\frac{mS_A^2 + nS_B^2 + (m+n)\{(\bar{x} + \bar{y})^2 - (\bar{w})^2\}}{m+n}$
 ② $\frac{mS_A^2 + nS_B^2 - (m+n)\{(\bar{x})^2 + (\bar{y})^2 - (\bar{w})^2\}}{m+n}$
 ③ $\frac{mS_A^2 + nS_B^2 - \{m(\bar{x})^2 + n(\bar{y})^2\} + (m+n)(\bar{w})^2}{m+n}$
 ④ $\frac{mS_A^2 + nS_B^2 + m(\bar{x})^2 + n(\bar{y})^2 + (m+n)(\bar{w})^2}{m+n}$
 ⑤ $\frac{mS_A^2 + nS_B^2 + m(\bar{x})^2 + n(\bar{y})^2 - (m+n)(\bar{w})^2}{m+n}$

長々とした式が登場するが、A 組の得点と \bar{w} の差の 2 乗の和は

$$\sum_{k=1}^m (x_k - \bar{w})^2 = \sum_{k=1}^m x_k^2 - 2\bar{w} \sum_{k=1}^m x_k + m(\bar{w})^2 \dots \dots \textcircled{1} \text{ であり、}$$

ただし書きの式から $\sum_{k=1}^m x_k^2 = mS_A^2 + m(\bar{x})^2$ であるから、 $\textcircled{1}$ は

$$mS_A^2 + m(\bar{x})^2 - 2\bar{w} \cdot m\bar{x} + m(\bar{w})^2 = mS_A^2 + m(\bar{x} - \bar{w})^2 \text{ となり、} \textcircled{3} \text{ となる。}$$

ここで導いた式は後半の設定の決定的なヒントであり、

$$\begin{aligned} (m+n)S^2 &= \sum_{k=1}^m (x_k - \bar{w})^2 + \sum_{k=1}^n (y_k - \bar{w})^2 = mS_A^2 + m(\bar{x} - \bar{w})^2 + nS_B^2 + n(\bar{y} - \bar{w})^2 \\ &= mS_A^2 + nS_B^2 + m(\bar{x})^2 + n(\bar{y})^2 - 2(n\bar{x} + m\bar{y})\bar{w} + (m+n)(\bar{w})^2 \\ &= mS_A^2 + nS_B^2 + m(\bar{x})^2 + n(\bar{y})^2 - 2(m+n)\bar{w} \cdot \bar{w} + (m+n)(\bar{w})^2 \\ &= mS_A^2 + nS_B^2 + m(\bar{x})^2 + n(\bar{y})^2 - (m+n)(\bar{w})^2 \text{ より、} \textcircled{4} \text{ となる。} \end{aligned}$$

言うまでもなく、Σが威力を発揮している。

■ 最後の内容は、当雑感 128 「合併 2 集団の分散」で扱った内容である。難易度が高い問題中、このヒントは秀逸である。とは言え、表記方法がそこで触れたものとも異なり、妖怪の面目躍如である。